

固定観念にとらわれない発想を武器に「ポジティブアクション」に取り組む

内藤電気株式会社 奈良県橿原市

奈良県橿原市に本社を置く内藤電気株式会社は、固定観念にとらわれない独自の発想を展開している。同社では、制御盤の配線や組立など、一般的に男性の仕事と思われがちな作業にも積極的に女性を配置している。また、製造工程は「ライン工程」ではなく、作業の最初から最後までをひとりの人間が行う「屋台方式」を採用している。

このように、同社では固定観念にとらわれない発想を武器にして「ポジティブアクション（女性労働者の能力発揮を促進するための積極的取組）」に取り組み、着実に業容を拡大させている。

会社概要



会社名：内藤電気株式会社
 所在地：奈良県橿原市新堂町313-1
 電話：0744-24-6636
 F A X：0744-24-6638
 創業：昭和44年1月
 設立：昭和60年4月
 代表者：代表取締役 内藤 順義
 資本金：2,500万円
 従業員：23名
 事業：電気工事業、制御盤・操作盤製作等



本社社屋

「もの作り」を目指して

内藤順義社長は電気系統の学校を卒業後、サラリーマン経験を経て、昭和44年から個人で電気工事業を営んでいた。数年後、親しくしていた大

手メーカーの社長から新たな事業展開を勧められた。それは制御盤の製作であった。制御盤とは、機械や電気装置の遠隔操作などにおいて、制御用の計器類やスイッチ類を一か所に集中設備した盤のことで、金属製の箱に収納されている。

社長は昭和53年に電装部を新設し、制御盤の製作を開始した。その後、昭和60年に現社名の内藤電気株式会社に改組、3度の増資や平成13年の新社屋竣工などを経て、現在に至っている。

制御盤の製作開始後、業績は順調に推移し、今では県内はもちろんのこと県外からも多くの注文が入ってくるようになった。しかし、広告・宣伝は全く行っていないのだという。これは、最近の制御に欠かせない高度な技術力が口コミで広がっているからで、同社技術力の高さを証明している。



同社製作の制御盤

内藤社長は、ある信念を持っている。それは自分が考える「ものづくり」とは「もの作り」であるということである。「づくりは『創り』とも表現できるが、『創』という文字は、何となく大手企業のやり方の印象を受け、間尺に合わない。自分が求めているものは同じ『づくり』でも『作』のイメージなのです」と内藤社長は語る。

また、製造過程において社長が徹していることがある。①正確につくこと、②商品価値のあるものをつくること、そして、③きれいにつくこと。この3つである。利益を最優先しなくても、

そうすることで自然と利益はついてくるものと考えている。

固定観念にとらわれない発想

制御盤の配線や組立ての作業は、一見すると難しい技術が必要としそうに見えるが、きっちりとした教育を行い、法則や理論付けを指示すれば、電気系統の勉強をしていなくても十分に作業が可能である。「わが社の仕事は高度な技術より、むしろ本人の感性が大事です」と内藤社長は語り、自ら社員教育を行っている。1次元の図面から3次元である制御盤を作り上げるためには、平面的なものの見方だけではいけない。感性が豊かなほど立体的な見方ができ、これこそが重要なのだという。

ところで、制御盤の配線や組立てなどは男性の仕事であるという固定観念や製造は流れ作業で行う「ライン工程」であると決めつけていないだろうか。創業当時を振り返ると、同社には男性の技術者が少なかった。製造ラインも持っていなかった。そこで社長は反対の発想をした。「男性の技術者に加え、女性の技術者を養成しよう」、「ラインがなければ違う方法で製造できないか」と考えた。

その結果、同社では「ライン工程」ではなく、作業工程の最初から最後までを1で行う「屋台方式」を採用した。また女性の登用も積極的に行った。現在23名いる社員のうち女性は14名と過半数を占めている。さらに、責任者は8名のうち3名が女性、役員も4名のうち2名が女性である。このように、ドライバーとはんだごてを手にした



屋台方式の作業風景

女性が中核となって活躍している。

また、男女を問わずパートタイマーから正社員への登用を社長は推奨しており、本人の希望を斟酌したうえで、家庭と仕事の両立や扶養家族から経済的に自立した正社員への転換も積極的に働きかけている。



中核となる女性社員

さらなる女性社員の登用に向けて

同社は、厚生労働省の「均等推進企業表彰※」の「平成17年度優良賞（都道府県労働局長賞）」を受賞した。平成17年度を受賞企業の顔ぶれをみると、大手自動車メーカーや大手金融機関などを中心に全国で33社、もちろん奈良県では同社が唯一である。

※均等推進企業表彰とは、女性労働者の能力発揮を促進するための積極的取組（ポジティブ・アクション）を推進している企業に対し、その取組をたたえるとともに、これを広く国民に周知し、女性労働者の能力発揮の促進を図ることを目的としている。

正社員への登用は大きな効果があった。パートから正社員になると見違えるように変化がみられたのだ。「例えば、仕事への取組姿勢や積極性、責任感が増し達成感などが芽生え、社内の雰囲気も大きくかわりました。それが良い結果を呼び、本人の自信にもつながってきています」と内藤社長は言う。

今後も、女性社員の積極的な雇用や管理職への登用を推し進めていくという内藤電気株式会社。同社のさらなる成長が期待される。（丸尾、山城）